

Home
ホーム

Symposium
開催概要

Program
プログラム

History
過去のシンポジウム

Application
参加申込

Access
アクセス

『オリンピックのための食材調達をいかに実現するか』

～オリンピックで求められる持続可能な農畜水産食材の調達と国際認証～

お知らせ Topics

2016-2-5 事前申込の受付を終了しました。参加ご希望の方は、当日、会場受付にてお申込下さい。

2016-2-4 プログラムを更新いたしました。
詳細はこちらから。
展示ブースについて更新しました。
詳細はこちらから。

2016-1-30 ニュースリリース「2015年度GAPシンポジウム『オリンピックのための食材調達をいかに実現するか』（1月29日配布）」

2016-1-18 プログラムを更新いたしました。
詳細はこちらから。

2015-12-20 プログラムを更新いたしました。
詳細はこちらから。

2015-11-25 2015年度GAPシンポジウムの参加受付を開始いたしました。
詳細はこちらから。

2015-11-25 2015年度GAPシンポジウムの開催概要を更新いたしました。
詳細はこちらから。

開催スケジュール

2016年2月09日(火)～10日(水)

東京都文京区弥生1-1-1

東京大学農学部内 東京大学弥生講堂（東京都文京区）

プログラム

プログラムを更新いたしました。
詳細はこちらから。

参加申込

事前申込の受付を終了しました。参加ご希望の方は、当日、会場受付にてお申込下さい。（2月5日18時現在）

お申込みは、FAXまたは**申込みフォーム**にて受付。

[▲ ページのトップへ戻る](#)

Home ホーム	Symposium 開催概要	Program プログラム	History 過去のシンポジウム	Application 参加申込	Access アクセス
-------------	-------------------	------------------	----------------------	---------------------	----------------

開催概要

名 称	2015年度GAPシンポジウム
日 程	2016年2月09日(火)～10日(水)
開 催 地	東京都文京区弥生1-1-1 東京大学農学部内 東京大学弥生講堂（東京都文京区）
参加費(資料代)	・主催・共催会員：10,000円 ・一般：15,000円 ・学生：2,000円 ・情報交換会参加費：3,000円
展 示	企業等による情報展示（開催期間中） ・ ヤンマーアグリジャパン株式会社 HP ・ SGSジャパン株式会社 HP ・ 株式会社ベジテック HP

2015年度GAPシンポジウム

主 催	一般社団法人 日本生産者GAP協会
共 催	特定非営利活動法人 水産衛生管理システム協会 GLOBAL G.A.P.協議会 特定非営利活動法人 経済人コー円卓会議日本委員会
事務局	(一社)日本生産者GAP協会 教育・広報委員会、(株)AGIC大会事務局
対 象 者	農業試験研究者、農業普及関係者、大学・大学校、農業高校、農業生産者、農業法人、農協、出荷組合、産直団体、農林行政機関、卸売市場、卸売会社、農産加工会社、農産物流通・小売企業、外食企業、消費者、調査・検査・認証機関、研究機関、その他
テーマ	『オリンピックのための食材調達をいかに実現するか』 ～オリンピック・パラリンピックで求められる持続可能な農畜水産食材の調達と国際規格～
開催趣旨	開催が4年後に迫る東京オリンピック・パラリンピックで世界中から集まる選手や観客に対する「おもてなし」の農畜水産食材について、生産や取扱管理における国際的規格が求められるとともに、どのように食材を調達するのが大きな課題になっている。 オリンピックの開催を契機に、農畜水産業における環境負荷を最小限に抑える持続可能性マネジメントの仕組みと実践例を造るとともに、その持続可能なサプライチェーン全体を大会のレガシーとして国内の業界に広く普及し、日本が持続可能な社会に大きく近づく変革の契機としていくことが必要である。 本シンポジウムでは、オリンピック・パラリンピックで求められる持続可能な国産農畜水産食材の調達は視野に入れつつ、これを実現するために必要な考え方と具体的な方策について異なる分野の異なる視点で考え方を整理し、今後のオリンピック対策の加速化に資するものとする。
	東京オリンピック・パラリンピックの成功とは 今から50年前に開催された「東京オリンピック大会」では、背景に「オリンピックを契機として社会インフラの整備を図り、社会全体の発展を図ること」という目標がありました。その結果、日本は高度経済成長で物質的な豊さを享受しましたが、一方で公害の問題や地域間格差の増大などの負の要因を残す結果になりました。2020年東京オリンピック・パラリンピック大会で私達が目指すべき成功は、このような負の要素を限りなく排除した形のものにしなければなりません。 その点で、2012年にイギリスで開かれたロンドン大会は、徹底した環境配慮で、「史上最も持続可能なオリンピック」と讃えられました。そして、2020年の東京大会の誘致にあたり、日本はこのロンドン大会を超える意欲的な環境配慮の目標を設定しアピールし、その実現を約束したのです。 立候補ファイルでは「大会組織委員会は、製品やサービスの調達・購入に当たっては、社会性（特に労働基準等）に配慮した製品・サービスが優先的に採用されるようにする」、「製品・サービスの調達・購入について作成される基準およびガイドラインは、国際労働基準や国内労働法を踏まえる」との記述もあります。 オリンピックを契機に本物のGAPを実現する 世界が注目する2020東京オリンピック・パラリンピックは、農業の持続可能性（サステナビリティ）

シンポジウムのねらい

に関心をもつ産地や団体にとって、自らをアピールするための最高の舞台となります。

大会組織委員会は、大会の実施にあたって、多くの企業や団体に、資金やモノやサービスの提供を求めることになります。産地や団体はこの機会を、自身にとってのチャンスと捉えることもできます。日本での常識が世界での常識とは限らないということを痛感するかもしれませんが、だからこそ、これまで進めてきた産地の安全で持続可能な取組み（GAPやHACCP）に向けた活動を、「国際的に通用する規格の視点」で捉えなおす絶好の機会です。

日本の農畜産業の産地や団体が新たなステージに立つためには、戦略的な思考が求められます。まずは、①自身の持続可能な農業に関する活動を整理し、GAPに関する日本の現状と国際規格のギャップを認識して、②持続可能性を求める国際社会は農業に何を求めているのだろうかを考え、それに自身がどのように関わるかということをはっきりとすることです。③そして、持続可能性のマネジメントを実現し、世界に発信する必要があります。

当会の活動との関係性

一般社団法人日本生産者GAP協会は、創設以来一貫して推進してきた「農業の持続可能性への取組み」を、適正農業規範の発祥の地とも言えるイングランドの農業政策GAPと全国農民連合のレッドトラクター表示制度との出会い、スペインのアンダルシア地方のアルメリアやエルエヒド市における農産物輸出のための農場保証（ファーム・アシュアランス）支援体制などから多くを学んできました。

持続可能な農業のGAP政策や環境保全型農業マーケットが確立していない日本国内では、GAPはもっぱら「食品安全管理システム」としての要求事項でしかありませんでした。しかし、2020年には「東京オリンピック・パラリンピック」が開催され、多くの外国人を迎えるとともに、同年に、農産物食品の輸出総額1兆円以上を政策目標にしていることから、GAPもHACCPも、国際規格を意識しなければならぬ、と閣議決定されるほどになりました。

特にGAPは、そもそも持続可能な農業を実現する管理ですから、ロンドン大会以来、オリンピックの目標となっているサステナビリティ（持続可能性）の実現のために、日本のGAP実践も、国際的に通用する本来のGAPとして全国の産地に定着させることが必要になりました。

当会では、創立以来、都道府県の普及指導員を「GAP指導者」として養成する教育事業を実施し、国際規格を意識した本来のGAPを推進してきました。

シンポジウムで議論を深める

日本の農畜水産業は今後どのような環境配慮や労働安全などを実現するのか、オリンピック開催を契機に、「農畜水産業における持続可能な調達のマネジメントシステムを実現する」とともに、「持続可能なサプライチェーン全体を、大会のレガシーとして国内に広く導入」し、日本が持続可能な社会に大きく近づく変革の契機としていくことをシンポジウムの目標とします。

今回のシンポジウムでは、オリンピックで求められる持続可能なマネジメントの仕組みを実現するために、どのような考え方が必要なのか、そしてそのための具体的方策はどのようにすべきかなどについて議論していきたいと考えています。そしてシンポジウムにおける考え方の整理が、オリンピック・パラリンピックのサステナビリティとレガシーの加速化につなげて行ければと思っています。

[▲ ページのトップへ戻る](#)

[ホーム](#) [開催概要](#) [プログラム](#) [過去のシンポジウム](#) [参加申込](#)

2015年度GAPシンポジウム事務局

Copyright© 2022 Japan Farmers GAP Association All Rights Reserved.

Home
ホーム

Symposium
開催概要

Program
プログラム

History
過去のシンポジウム

Application
参加申込

Access
アクセス

2015年度GAPシンポジウム

プログラム

▶ 2月09日

▶ 2月10日

プログラム：2月09日(火)

オリンピック用食材調達への環境整備と農畜水産業の持続可能性

10:00～ 10:55	受付	
10:55～ 11:00	開会	
11:00～ 11:10	主催者挨拶	石谷孝佑 日本生産者GAP協会 常務理事
11:10～ 11:40	特別講演1： 我が国における農業生産工程管理（GAP）の取組状況及び 推進施策 我が国の農業生産工程管理（GAP）の取組状況及びGAP政 策を推進する農業環境対策課（Sustainable Agriculture Division）が行うGAPの推進施策等について	前田 豊 農林水産省生産局 農業環境対策課長
11:40～ 12:10	特別講演2： 東京大会が目指す「持続可能性」と「フードビジョン」を ロンドン大会に学ぶ 東京大会が目指すべき持続可能な調達コード、食品戦略 （フードビジョン）のお手本となるロンドン大会で策定さ れたフードビジョンを解説する。	山田正美 日本生産者GAP協会 常務理事
13:10～ 14:10	基調講演： 日本における農畜水産業の持続性評価と期待される取組み 日本の農業関係者が持続可能な社会づくりのための本来の GAPを意識し、オリンピック・パラリンピックを契機に、 世界水準の行動規範とその評価に取組むことを提言する。	田上隆一 日本生産者GAP協会 理事長
14:10～ 14:50	講演1： 2020年東京大会の真の成功と日本の国際競争力の強化 東京オリンピック・パラリンピックの実施に際して懸念さ れるサステナビリティの課題や人権リスクについて理解を 深める。	石田 寛 経済人コー円卓会議日本委 員会専務理事 事務局長
15:10～ 14:50	講演2： 2012年ロンドン大会農産物調達のベンチマーク基準「レ ッドトラクター」 GAPの導入という形で「チェックリスト」を示し、「そう しなければならないという規制」を行う日本のGAP認証制 度とは、その内容、運営、信頼度とも本質的に異なる 「Red Tractor」を紹介する。	山田正美 日本生産者GAP協会 常務理事
14:50～ 16:30	講演3： オリンピック用水産物のHACCPと持続性のMSCとASC 海外の安全基準に対応するHACCPシステムの普及と、オリ ンピック・パラリンピックで求められる持続可能な水産業 の「エコラベル」の日本の対応について考える。	阿部万寿雄 水産衛生管理システム協会 理事
16:30～ 17:10	講演4： 東京大会の「持続可能性」と「フードビジョン」・「レガ シー」 2020年東京大会の「持続可能性」と「フードビジョン」・ 「レガシー」について、今後押さえておくべきポイントを 整理する。	岡田美穂 経済人コー円卓会議日本委 員会 ディレクター

17:30～ 19:00	情報交換会	
プログラム：2月10日(水)		
オリンピックで求められる食材と国際認証の現場的課題		
9:00～ 9:10	受付	
9:20～ 10:00	講演 5： GLOBALG.A.P.が目指す農業の持続可能性 GLOBALG.A.P.にまつわる誤解を解き、GLOBALG.A.P.が目指す農業の持続可能性やその倫理的な取組みについて紹介する。	今瀧博文 技術士（農業部門）／日本 農産物輸出組合 事務局次 長
10:00～ 10:40	事例 1： 水田農業に見る持続性の実践とGLOBALG.A.P.認証の取得 ブランド米「龍の瞳」（品種名「いのちの舌」）を生産・販売する団体が、GH農場評価から始めた生産者教育とGLOBALG.A.P.認証（米）への取組みを紹介する。	今井 隆 株式会社龍の瞳 代表取締役
10:50～ 11:30	事例 2： 野菜生産におけるGLOBALG.A.P.の実践と食材の安定供給 内部指導者が自らGH評価を学び取り組んだベルファームの社内教育とGLOBALG.A.P.認証（青果物）取得を紹介する。	江口陽子 株式会社鈴与総合研究所 （農業生産法人ベルファーム）
11:30～ 12:10	講演 6： 畜産物における持続性の実践とGLOBALG.A.P.認証の取得 畜産物のリスク管理が出来る人材の養成に取り組むために宮崎大学附属牧場が取り組んだGLOBALG.A.P. 認証（牛とミルク）の取得について紹介する。	真 智代 宮崎大学農学部附属フールド科学教育研究センター 住吉フィールド（牧場）
13:10～ 13:40	事例 4： 持続可能な農業を未来につなぐ“とやまGAP”の推進と指導者の育成 GAP条例を制定して「GAP規範」を策定した富山県が、普及指導員をGH農場評価員として育成し、国際レベルのGAP指導を可能とする体制の構築について紹介する。	津田 靖 富山県農林水産部 農業技術課
13:40～ 14:10	事例 5： 農業者として生き残るためのGAP（持続可能な農業）と農業者の育成 主体的にGAP実践を決定した福井県認定農業者の会が、GH評価制度を導入して、普及指導員の協力を得ながら、自主的にGAP実践に取り組む様子を紹介する。	安斎正嗣 福井県認定農業者ネットワ ーク会長
14:10～ 14:40	事例 3： 今からでも遅くない東京オリンピックの国産食材の調達戦略 オリンピックで求められる持続可能なマネジメントの仕組みを実現するために必要な人材養成と産地のGAP指導が進んでいる。	田上隆多 株式会社AGIC 取締役GAP普及部長
15:00～ 16:30	全体討議（パネルディスカッション） 2020年東京大会で求められる持続可能な農畜水産食材の調達と国際認証について、ロンドン大会に学ぶとともに、日本の現状に応じた国際的に通用する「おもてなし」と、持続可能な日本の農畜水産業の在り方を探る。	
16:30	閉会	

[▲ ページのトップへ戻る](#)

※講演内容、時間は進行上の都合により変更になる場合もございます。あらかじめご了承ください。（敬称略）

[ホーム](#) [開催概要](#) [プログラム](#) [過去のシンポジウム](#) [参加申込](#)

2014年度GAPシンポジウム事務局

Copyright© 2022 Japan Farmers GAP Association All Rights Reserved.